

8月29日の説教要旨

「断捨離の勇気与える神の国」

春名康範牧師

聖書 マタイによる福音書 13章 44～52節

昨年、畑にするために隣接地を買った私達にとって、今朝の44節のお言葉は、大変興味深いお言葉です。畑の中に宝が隠されているのを発見した人は、持ち物を全部売り払ってその畑を買い取り、宝物を自分の物にするというのです。私も金銭以外の宝を見つけて隣接地を買いました。金銭的な宝物は出て来ず、家屋を取り壊すのと同じ程の費用が家の中にあつたゴミを処分する為に必要でしたが。

今朝のみ言葉は「天の国の譬え」で、まず「天の国」は畑に宝が隠されていることを知ると全財産を売り払ってでもその畑を買い取ろうとする人のようなものだと言われました。45節以下の「真珠商人の譬え」も同じです。47節以下の譬えは網に魚がいっぱいかかった人がよい魚と悪い魚を分けて、よい魚だけ器に取り入れる漁師のようなものだと言われるのです。この3つの譬えに共通しているのは、「天の国」のことを知った人は良いものと悪い物、高価な物とくだらない物をえり分ける作業をすることになるということです。

ディック・J・ライダーとデイブ・A・サピーロの共著で「人生に必要な荷物、いらない荷物」という本があります。二人が東アフリカを旅した時、大きなリュックサックに必要と思われる沢山の荷物を詰め込んで出発した。ところが、二人のガイド役のマサイ族のコイーは、槍と家畜を追うための棒しかもっていなかった。コイーが二人の荷物に興味を持っているらしいのでその日の夕方、キャンプを張った時にリュックサックを開けて、荷物を取り出して見せました。コイーは「これが全部あれば、幸せなのか」と言いました。二人は、自分達が持っている荷物を見直し、本当に必要で背負い続けていく価値がある物だけをリュックサックに詰めて、あとは近くの村に置いて行くことにした。それから長い旅をして、「あれがあれば」と思う事は一度もなかった。

我々の人生にも、なかなか捨てきれないもの、執着するもの、失いたくないもの、気になるものがあります。しかし、神様が私たちを愛してくださっていることに気が付くと、我々の命は物にも肩書きにも、人々の評価にも左右されず、資格だとか誇りだとか義務だとか見栄からも解放されて、さわやかな気持ちになることが出来ます。天の国、神様の支配や関わりを知ると、私たちは物を持つことや人の評価から自由になって人生をもっと楽しむことが出来るのです。片付けや断捨離が出来ないと言われますが、神様との出会いを通して、人生の片付け名人になりましょう。